

中国系二中学生の日本語講習

一期生 桑村益夫

たびたび新聞やテレビで海外からの日本への移住者が増えている事が報道されており、中でも歴史的に、また文化的にも関係が深い中国からの移住者が増えています。移住者には年少者も多数含まれており、6 年程前から当時の二中校長の要請に応え同窓会活動の一環として、中国系の生徒に日本語を教えています。

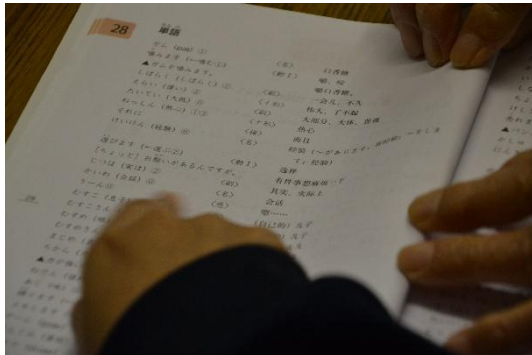
私は大学で中国語を専攻し、1958 年に貿易商社に入りましたが、折悪しくその年の 6 月頃に、「長崎国旗事件」という、長崎の中国物産展で右翼が中国の五星紅旗を破棄する事件が発生し、当時まだ国交回復はしていませんでしたが、既に始まっていた日中貿易が中断し、私は中国関連の仕事がなくなり、アメリカの食品(当時普及し始めたドッグフードを含む)の輸入や国内製品の販売部門に異動し、1972 年に国交が回復するまでの 10 数年間に香港、シンガポール等に勤務し中国語とは無関係の仕事に従事しました。中国の偉大な指導者・鄧小平の復活に伴い対外開放政策が実施された為、私が中国語を殆ど忘れた頃の 1979 年の暮れに、突然北京出張所の開設を命じられ、旅行者として北京に滞在し、翌年 3 月によりやく中国当局から事務所開設の許可を取得し、北京事務所長として二年間駐在しました。

大学を出てから約 20 年、殆ど忘れてしまった中国語を苦使（？）しての北京勤務を、2 回、併せて 5 年間やり、やっと中国語で仕事が出来るようになりました。前置きが長くなりましたが、私の中国語との係わり合いをご紹介します次第です。



現在は、中国系生徒、二年生の女子 O さん、一年生の男子 S さん、三年生の男子 K さんの三名に、毎週火曜日と金曜日の午後、個別に 1 時間、日本語を教えています。彼らは長くて一年前、短い生徒は数か月前に来日したばかりで、平仮名や片仮名の読み書きはできますが、会話は程度の差こそあれ、まだまだ不自由で二中の先生方も大変ご苦労されています。ちょっと話がそれますが、私がサラリーマン生活最後の仕事として、中国浙江省湖州市での冷凍食品工場の建設に従事した際に、三村武教さん（二中同窓会第三代会長、現理事）が、提唱され、私の慰問を兼ねた「中国杭州、蘇州、上海の旅」を挙行了時の三村さんの紀行文が市川二中のホームページに掲載されています。この工場には約百名の工員がおり、日本語の取得を希望する人もいたので、日本語講習を始めることになり、市中の書店でテキストを探したところ、中国中央電視台（テレビ局）が出版した、テキストを発見し、その監修者のなかに、私の大学時代の級友で、中国語教育の

権威である、興水優東京外国語大学名誉教授の名前を見出し、私の箔づけを兼ね



てこのテキストを使用しました。二中学生の講習にも、私が中国から持ち帰った上記のテキストを使っています。 神田の中国図書の専門店へ行ったところ、内

容が格段に進歩した上記と同名のテキストの、初級と中級を求めることができました。このテキストは日本語の習得に止まらず、日本での生活に必要な諸手続きの申請方法や、日本の風俗習慣、主要な都市を、観光地を含め、中国語で紹介しており、中国人にとって非常に良いテキストです。

日本語講習の進め方としては、幸い彼らは平仮名が読めますので、ルビを振った漢字を含む日本語の会話の例文等を読ませ、発音、特にアクセントを修正したりして、正しい日本語を話す訓練をします。 私見ではありますが、日本語は動詞の変化や、助詞の使い方などが極めて複雑で、世界中でも最も学びにくい言語のひとつではないでしょうか。 私の母親は東京の本郷で生まれ、生粋の江戸っ子で、私は自然に比較的正しい日本語を会得することができたので、生徒たちには鼻濁音の練習もさせています。彼らは、鼻濁音の発声の仕方を覚えても、どのような時に使うのかは、なかなか習得できませんから、「NHK のアナウンサーでも鼻濁音の正しい使い方が出来ない人がいるから、あまり気にしないで良い。」

と言ったりしています。発音の面では、中国人は一般的に濁音の発音が苦手です。これは中国語に日本語の濁音に近い発音が無い為で、根気よく練習する必要があります。講習では、しばしば生徒がテキストの日本語の内容が理解できず、私に中国語で説明を求める場合が多いのですが、その様な時には、間違っても構



わないから、できるだけ日本語で、ゆっくり質問するよう求め、時には日中辞典を使うように指導します。平仮名が読めても、平仮名の順序が混乱し、辞書を使うのに一苦労です。

三人の中国系生徒の家庭環境につき、私の知る範囲で説明します。

二年生の O さんの父親は日本人ですが、母親は中国人です。何かの事情で母親の実家で育てられました。かなり前に父親が早逝し、母親は日本で色々苦労を重ね、やっと生活の基盤が整ったので、数か月まえに日本に呼び寄せられました。

O さんは来日前に、中国で出版された日本語学習の初級テキストを三分の一程度自習して来ているので、会話はまだまだですが、読み書きの方は来日したばかりとは思えない程習熟していて、しばしば文法上の質問をして、私を困らせます。

一年生の S さんは、母親が大分以前に単身で来日し、いろいろ苦労された結果、或る程度生活が安定してきたので、数か月前に中国では弁護士をしておられた

父親と妹と共に三人で来日しました。 神田の中国図書専門店へ日本語のテキストを求めに行った際に同行した父親と、私は専ら英語で話し合い、流石にエリートだとの印象を受けましたが、日本での就職難をこぼしていました。

Sさんの日本語は、まだ片言程度で、テキストの例文を読みこなすのがやっと、と言ったところです。 しばしば、講習の時間に遅刻したり、或る時はテキストを持参し忘れたりで、父親が優れた人であるにもかかわらず、指導には一番苦心する生徒です。三年生のKさんは、両親が30年近く前に夫婦で来日し、皿洗いから始めて艱難辛苦の結果、今ではマンションを数か所も所有している不動産賃貸業者で、Kさんをその後継者に育てるべく、約一年前に呼び寄せました。

二中卒業後は、家業を手伝わせる傍ら、通信教育制度の高校に進ませる考えのようで、普通の高校受験の準備は必要ありませんが、通信教育について行けるだけの日本語の能力は必要です。二中卒業までにあまり時間が残されていないので、本人の希望もあり、夏休み中は我が家で、週二回、各一時間の日本語講習をやりました。或時、Kさんが大きな袋を抱えてきたので、「これは何？」と聞いたところ、講習が終わり次第、父親の所有するマンションへ行き、出入口や階段などの共有部分の掃除をするとの事でした。 Kさんは日本語の講習に熱心で、約一年前に来日してきた際には、全く日本語が話せず、二中の先生方はお手上げ状態で、私が呼び出されました。彼は今では、日本語に大分馴染み、私が先生方に、

「Kさんの日本語は如何ですか？」と尋ねると、異口同音に「随分話せるようになりました。」と答えて下さるので、私としても、些か達成感を覚えたりしています。私の中国系生徒に対する日本語講習の成果を、学校側でも認めて居られる様で、私が週に二回、二中に行くと、見知らぬ先生方から、「ご苦労様です。有難うございます。」と丁寧なご挨拶を頂戴します。

私は幸いにも両親から健康な身体を授かり、加えて妻の日頃の健康に配慮した食生活のお蔭で、年齢に比し健康な生活を続けて居られる間は、二中同窓会活動の一環としての、中国系生徒に対する日本語講習を続けて参りたいと考えて居ります。

写真撮影 斎藤 康さん（同窓会 現会長）のお話し

理事の桑村さん（1期・初代同窓会会長）が二中の要請を受けて数年前から標記をなさっています。会則にもある「母校及び母校在校生との交流」を受け、同窓会活動の一環となっています。そこで、10月24日（金）午後1時20分からの講習の様子を撮影に参りました。

校長藤井先生・教頭大林先生から「個人情報保護・肖像権」の観点から個人が特定できる正面からの撮影が難しいので、斜め横や後ろ姿になりました。冒頭に3名の生徒が集合しその後、学年ごとの講習に移りました。

斎藤 康